

会 議 録 (概要)

会議の名称	第 3 回 佐渡市立両津病院移転新築検討委員会
開催日時	平成 28 年（2016）12 月 26 日（月）13:30～15:00
場所	金井コミュニティセンター 2 階小会議室
議題	・両津病院の移転新築事業の経過について ・診療科について ・病院の機能について ・病院の病床機能と規模
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	参加者 医療介護・知識地域・行政 8 名 事務局 両津病院管理部 小路管理部長 金子管理課長
会議資料	①次第 ②委員名簿 ③前回議事録 ④基本構想案 ⑤その他
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
副市長 委員	○副市長（座長）あいさつ ○資料の説明 ・医療介護は佐渡全体で体制を整備しなければならない。 「治療主体型」（※従来の医療：治療後に社会復帰）と「生活支援型」（※治療の前後で社会復帰困難者への医療）の診療パターンに分けられる。超高齢化社会では、「生活支援型」の診療が増えてくる。「生活支援型」は、より多くの医療資源を必要とする。 ・みずほを除く 5 つの病院が 1 次医療を担当する。佐渡病院は加えて 2 次医療も担当。 ・佐渡全体の空きベッドを効率的に運用する連携センターのような機能を持つ部門が必要。

	・高齢化社会では、「地域包括ケア病床」が中心となってくる。 ・生活支援のためのコメディカル（リハビリ・訪問介護・ケースワーカー等）が協同する体制を作ることが必要。 ・病・病や病・介での職員の流動化があれば良い。その為には業務の標準化が必要。 ・院内外を問わず、入院・転棟・退院・介護を他職種が関与してコントロールできる体制が必要。 このような体制がとれば、島外にアピールできる。地域医療介護の教育研修地域として人材確保も期待できる。
事務局	○報告事項…小路管理部長 ・12月定例会市議会での議論の様子紹介 ・前回の議事録の確認（委員からは異論、内容修正等はない） ○両津病院の現状及び検討事項の説明…小路管理部長 ○質疑応答
委員	・夕方7～8時まで診療する「夕暮れ外来」などの特色ある取組みが加えられないか。
委員	・小児科は放課後受診が多いので、実際に6～7時まで診療することが多いが、医師個人の頑張りとはコメディカルの時間外労働で支えられている。
委員	・整形外科の需要を満たせていないが、医師確保や収益性を考えると佐渡病院の整形外科医増を望みたいが、それも難しい。
委員	・地域医療の寄附講座等を病院に設置して教育機能を持たせることは可能だが、県は既に魚沼基幹病院で教育機能を持たせたので難しい。
委員	・あるべき診療科と機能について、順序を逆にしたほうが分かりやすい。
委員	・単なる病院機能以上のものを地域に提供している。これを佐渡全体の視点でとらえて地域医療の模範として発信してほしい。
委員	・両津病院の特色を前面に出すべき。巡回診療と介護施設との連携、訪問看護は特色になる。
委員	・健康管理機関としての将来性も特色を持たせたい。
委員	・巡回診療と合わせて生活指導や保険事業、訪問診療をできればいいが、人材も必要になってくる。
委員	・市民にとっては当たり前のことかもしれないが、他の地域と比べると非常に特殊なサービスを受けているということをアピールすべき。
委員	・高齢者はどこが悪いのか分からない人が多い。そのような人を専門診療科につなぐのが総合診療科の役割。大変な役割だが。

委員 委員	・高齢者の救急需要は増えてくる。そこに対応することが大切。 ・病床数は 60 床の想定だが、おそらくは、もう少し少ない数で足りるだろう。根拠の数字を持っていたほうが良い。
------------------	--